

さとうきびの新植におけるイネヨトウの防除対策について

6 月頃より、沖縄群島においてイネヨトウの多発生が見られ、現在も引き続き発生しており、特に伊是名島、沖縄本島北部地域では被害が多い状況にあります（平成 23 年度病害虫発生予察注意報第 1 号参照）。さらに、先島地域でも例年に比べ発生がやや多い傾向にあります。

今後も被害の拡大が懸念されますので、新植夏植圃場の防除対策を徹底しましょう。

1 被害の発生状況

- (1) 伊是名村において、被害調査を 7 月と 8 月に行った結果、7 月と比較して被害が進行している圃場の割合が 15%、停滞が 57%、回復が 22%であった（北部農林水産振興センター農業改良普及課まとめ）。
- (2) 8 月上中旬の巡回調査の結果、名護市及び糸満市において、被害圃場の芯枯茎から幼虫が多数確認された。
- (3) 8 月中旬の先島地域における被害調査の結果、全域において本種の被害が確認された。また、一部被害の大きい圃場もみられた。

2 発生生態および被害

- (1) 沖縄では年 5 ~ 7 世代を重ね、幼虫（図 1）は周年を通して発生する。
- (2) 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1 雌当たりの生涯産卵数は 400 ~ 700 卵に達する。幼虫は葉鞘の外側から孔を開けて食入し、生長点を加害して芯枯れを起こす（図 2）
- (3) 初期被害は圃場周縁部で見られ、圃場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある（図 3）。
- (4) 被害圃場及びイネ科雑草地が発生源となり、新植圃場に侵入する。

3 防除対策上注意すべき事項

(1) 植付時

- a 全茎苗は剥葉し、メイチュウ類の加害芽子のある苗は使用しない。
- b 圃場内外のイネ科雑草は本種の発生源となるため、除去する。
- c 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を選択し、植溝施用する（図 4）。

(2) 生育初期

- a 周辺圃場における本種の発生の有無を確認する。
- b 芯枯茎が発生した場合は、茎を地際部より深く切り取り処分する。
- c 食入初期の幼虫を対象に薬剤防除を行う。
- d 培土時には土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を選択し施用する。
- e 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。



図1 イネヨトウ幼虫



図2 芯枯れを起こしたさとうきび



図3 イネヨトウによる被害圃場



図4 薬剤(粒剤)は植溝処理する